

東海カード会員だより

2019年7月20日発行

各支部総会・校友会(同窓会・後援会・白鷗会各会員を含みます)日程(予定)

…詳細は各担当事務局・または学園校友課へ…

2019.7.20 現在

1. 7月20日 (土) ・同窓会三重支部総会
9:00 ゴーリキマリンビレッジ
・静岡県学園校友会園遊会
10:00 海洋科学博物館前特設ステージ周辺
・同窓会静岡ブロック中部支部総会
13:15 海洋科学博物館前同窓会テント内
・同窓会広島支部総会・講演会
16:00 ANA クラウンプラザホテル広島
2. 7月28日 (日) ・同窓会静岡ブロック西部支部総会
時間未定 ホテルテトラリゾートやいづ
・同窓会神奈川ブロック中央支部親睦会
12:00 湘南キャンパス松前会館
3. 8月3日 (土) ・埼玉県校友会総会
18:00 浦和椿山荘
4. 8月5日 (月) ・校友会望星丸乗船体験(～7日)
清水港～伊豆大島
5. 8月18日 (日) ・第51回学園校友会海外視察旅行(～26日)
イタリア

インターネットホームページについて

URL : <http://www.kouyu.tokai.ac.jp/> (校友会)
<http://www.kouyu.tokai.ac.jp/kouenkai/> (後援会)
<http://www.kouyu.tokai.ac.jp/hakuou/> (白鷗会)
<http://www.kouyu.tokai.ac.jp/dousoukai/> (同窓会)

同窓会・校友会・後援会ではホームページを開設しております。会員の皆様からの情報をもとに内容を充実させていきたいと考えておりますので、ご意見・ご希望をお寄せ下さい。事務局までお気軽にお願いいたします。

東海大学ネットをご活用ください

・MicrosoftOffice365 システムによる生涯メールアドレスの利用
(tokai-u.jp のドメイン)詳細は以下 URL をご覧ください。
<http://www.kouyu.tokai.ac.jp/dousoukai/service/net.html>

東海カード提携協力店募集のお知らせ

東海カードでご利用頂ける独自の協力店は、会員の皆様のご協力により全国の店舗・施設でご利用いただけます。

東海カードをより価値あるものにするために、引き続き皆様に協力店の募集をお願いしております。詳細は同窓会事務局までご連絡をお願いします。

東海大学校友会(校友会・白鷗会・同窓会)事務局

学校法人東海大学理事長室学園校友課

〒151-8677 渋谷区富ヶ谷 2-28-4 TEL 03-3467-2211 (代表)

E-mail koyukai@tokai.ac.jp

東海大学事務部事務課(後援会担当)

〒259-1252 平塚市北金目 4-1-1 TEL 0463-58-1211 (代表)

E-Mail koyu@tsc.u-tokai.ac.jp

ウルフ選手が全日本の頂点に 世界選手権での「金」誓う

4月29日に日本武道館で柔道の全日本選手権大会が行われ、東海大から卒業生を含む8選手が出場。ウルフ・アロン選手(体育学部卒・了徳寺大学職員)が初の頂点に立った。現役学生唯一の出場となった男子柔道部主将の太田彪雅選手(体育学部4年)は、準々決勝で前回大会王者の原沢久喜選手(百五銀行)を破り3位に入った。体重無差別で優勝を争う今大会で、100キロ級のウルフ選手は初戦からスピード感あふれる柔道を展開。オール一本で勝進み、決勝では今大会の優勝経験もある加藤博剛選手(千葉県警察)を技ありで下した。

「これまでの努力や対策、練習が結果につながった。思っていたよりも何倍もうれしい」と思わず涙があふれた。6年ぶりとなる最重量級以外の覇者に、会場は大きく沸いた。

最重量級の選手との試合はけがをする可能性が高いという周囲の心配もあったが、「日本の100キロ超級に勝てなければ、世界の100キロ級に勝てない」と出場を決めた。自分より30キロ以上重い選手と組み合っても、スピードを生かして自ら組手を先に完成させ、相手の隙を逃さず技をかけ続けてスタミナを削り、優勝につなげた。

ウルフ選手は8月25日から9月1日まで日本武道館で行われる世界選手権東京大会の男子個人100キロ級の代表に内定している。相手の表情や上半身の動きから次の技や弱点を予測して対応できるクレバーさに加え、「技に入る前のフェイントの数を増やし、見ていて盛り上がる柔道をしたい」と話す。

大学4年時の同ブダベスト大会では初優勝したものの、昨年の同バクー大会ではけがの影響もあり5位だった。東京生まれのウルフ選手は、「今年の世界選手権や来年の五輪が地元で行われることはうれしい。多くの人に優勝する姿を見せたい」と意気込んだ。

総合準Vも多種目優勝校に 関東インカレ5種目制覇

関東学生陸上競技対校選手権大会(関東インカレ)が5月23日から26日にかけて相模原ギオンスタジアムなどで開催された。湘南校舎で活動する陸上競技部が出場し、総合では2位と目標だった優勝にあと一步届かなかったが、最も多くの種目を制し「多種目優勝校」となった。

400メートルの北谷直輝選手(体育学部3年)は5月11、12日に日産スタジアムで開催されたIAAF世界リレー2019横浜大会の4×400メートルの日本代表として4位入賞に貢献した。「世界で戦う貴重な経験をさせてもらった分、関東インカレでは負けられない」と400メートル決勝のスタートラインに立った。

持ち味を「前半からスピードに乗って、後半に粘れる部分」と語る北谷選手は、この日もスタート直後からリードを広げる。一時は、世界リレーで日本代表のチームメイトだった駿河台大学の若林康太選手(4年)にリードを奪われるも、最後の直線で差し返し、頂点に立った。

短距離の個人種目では2004年に同種目を制した山口有希選手(体育学部卒)以来の優勝に、「インカレで勝つことは大学時代の大きな目標だったのでうれしい」と笑顔を見せた。

3000メートル障害で優勝した阪口竜平選手(体育学部4年)は、終始先頭でレースを進める圧勝劇にも、「ハードリングに課題は残りますが、改善できればさらにタイムを伸ばせる。満足せず、練習に励みたい」と語った。

そのほかのトラック種目ではルーキーの飯澤千翔選手(同1年)が1500メートルを制した。フィールド種目では投てき部門の砲丸投げで岩佐隆時選手(同3年)が東海大記録となる17メートル07を投げて優勝。円盤投げでも飛川龍雅選手(同2年)が48メートル36で王者となった。

高野進監督(体育学部教授)は、「8連覇を果たした日本大学の背中が見えてきた。9月の日本生対校選手権大会では総合優勝を果たしたい」と語った。